

**イコマウメノキゴケ** チャシブゴケ目ウメノキゴケ科  
*Hypotrachyna ikomae* (Asahina) Hale

鳥取県：情報不足 (DD)  
環境省：—



標本写真 (正基準標本, 国立科学博物館所蔵)  
／撮影：大村嘉人

■**選定理由**：本種は生駒篤篤氏が鳥取市内の栗谷一太閣ヶ平で採集した標本をもとに朝比奈泰彦博士によって新種として記載された。日本の他に中国やマレーシアにも分布していることが知られている。国内での報告例は滋賀県, 鳥取県, 愛媛県, 佐賀県と西日本に広く分布しているが, 採集記録は少ない。

■**特徴**：葉状地衣類で, 直径 8 cm 程度に達することがある。裂芽を持ち地衣体腹面の周辺部は偽根を欠く。偽根は二叉分岐する。ランギフォルム酸とアトラノリンを含む。外形はウメノキゴケと間違えやすい。樹皮生。

■**分布** 県内：栗谷一太閣ヶ平。県外：滋賀県, 愛媛県, 佐賀県。

■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため, 森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：2, 3, 4, 6, 9, 11.

執筆者：大村嘉人・宮脇博巳

**ナリアイウメノキゴケ** チャシブゴケ目ウメノキゴケ科  
*Parmelia quercina* (Willd.) Hale

鳥取県：情報不足 (DD)  
環境省：—



標本写真 (Y. Ikoma, no. 3508, 国立科学博物館所蔵)  
／撮影：大村嘉人

■**選定理由**：県内では鳥取市青谷町澄水一川上峠 (1959 年) からの生駒篤篤氏による採集標本があり, 朝比奈泰彦博士により同定が確認されている。本種の分布は秋田県, 京都府, 兵庫県, 宮崎県, および本県が知られているだけである。

■**特徴**：葉状地衣類で, 直径 10 cm 程度に達することがある。裂片は 4-8 mm で腋の下は円形にえぐれる。地衣体背面は平滑, 裂芽も粉芽もない。髄は白色。レカノール酸とアトラノリンを主成分とする。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町澄水一川上峠 (旧：勝部村)。県外：秋田県, 京都府, 兵庫県, 宮崎県。

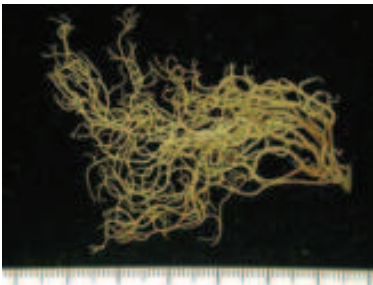
■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため, 森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：1, 5, 8, 9, 10, 11.

執筆者：大村嘉人・宮脇博巳

**トゲサルオガセ** チャシブゴケ目ウメノキゴケ科  
*Usnea aciculifera* Vain.

鳥取県：情報不足 (DD)  
環境省：—



標本写真 (I. Miyamoto, s.n., 国立科学博物館所蔵)  
／撮影：大村嘉人

■**選定理由**：県内では青谷町 (1955 年) や智頭町 (1930 年) からの採集記録がある。サルオガセ属は, 地衣類の中でも環境変化の影響を特に受けやすいことから, 大気汚染や乾燥化などによって絶滅の危険が増大する。

■**特徴**：樹枝状地衣類で, 直立～半懸垂性, 長さ 20 cm 程度に達することがある。地衣体は同長二叉分枝。枝は膨れない。点状の粉芽塊を有する。化学成分としてスチクチン酸を持つ。樹皮生 (まれに岩上生)。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町 (旧：中郷村山田), 智頭町 (旧：那岐村)。県外：本州, 四国, 九州の低地～山地 (海拔 260-1600 m)。

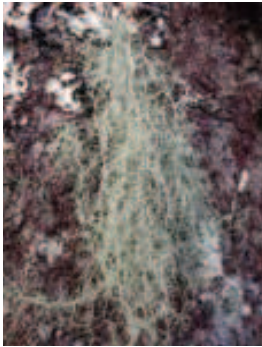
■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため, 森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：7, 9.

執筆者：大村嘉人・宮脇博巳

### フルイサルオガセ *Usnea merrillii* Motyka

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)  
環境省：—



三角山山頂 2021.9.20 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：全国的にも現存する個体の発見が難しいが、本県からは鳥取市用瀬町三角山のサクラ樹幹上に生育していることが確認された（2010, 2021年）。2021年の調査では2010年と同地点で確認されたのみであり、樹木の枯死とともに個体が消滅する可能性がある。

■**特徴**：樹枝状地衣類で、半懸垂性～懸垂性、長さ30cm程度に達することがある。地衣体は不同長二叉分枝。マキラおよび点状～円形の粉芽がある。枝の節間に二次的に再生した球状の節を生ずることがある。中軸の横断切片では穴が多数空いて篩状に見える。サラチン酸を主成分に持つ。樹皮生。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町。県外：本州、四国、九州の山地（海拔500–1000m）。

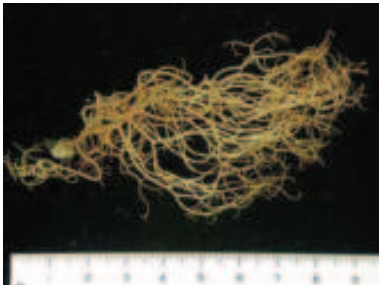
■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため、森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：7, 9.

執筆：大村嘉人・宮脇博巳・永松 大

### アカヒゲゴケ *Usnea rubicunda* Stirt.

鳥取県：情報不足 (DD)  
環境省：—



標本写真 (I. Miyamoto, s.n., 国立科学博物館所蔵)  
／撮影：大村嘉人

■**選定理由**：県内では青谷町（1955年）や鳥取市内詳細不明（1931年）、禰谷神社（1917年）での採集記録がある。サルオガセ属は、地衣類の中でも大気汚染や乾燥化などの環境変化の影響を特に受けやすく、全国的にも個体数減少が著しい。

■**特徴**：樹枝状地衣類で、直立～半懸垂性、長さ14cm程度まで。地衣体は不同長二叉分枝。末端の枝は成長しても著しく伸長しない。皮層に赤色素がある。主枝に円形の粉芽塊が目立つ。基本的にステクチン酸を主成分とする。樹皮生または岩上生。

■**分布** 県内：鳥取市（禰谷神社、青谷町（旧：中郷村山田）など）。県外：北海道、本州、四国、九州の低地～山地（海拔5–1500m）。

■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため、森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：7, 9.

執筆：大村嘉人・宮脇博巳

### アカサルオガセ *Usnea rubrotincta* Stirt.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)  
環境省：—



三角山山頂 2021.9.20 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では鳥取市用瀬町三角山での生育が確認されている（2010, 2021年）。ほかに、鳥取市内（詳細不明）で2点の採集標本がある（1929, 1931年）。サルオガセ属は、地衣類の中でも大気汚染や乾燥化などの環境変化の影響を特に受けやすく、全国的にも個体数減少が著しい。

■**特徴**：樹枝状地衣類で、直立～半懸垂性、長さ35cm程度まで。地衣体は不同長二叉分枝。末端の枝は成長すると著しく伸張する。皮層に赤色素がある。粉芽塊はおもに側枝に生じ、波状～不定形となる。基本的にサラチン酸を主成分とする。樹皮生または岩上生。

■**分布** 県内：鳥取市（用瀬町三角山など）。県外：北海道、本州、四国、九州の低地～山地（海拔5–1500m）

■**保護上の留意点**：大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいため、森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

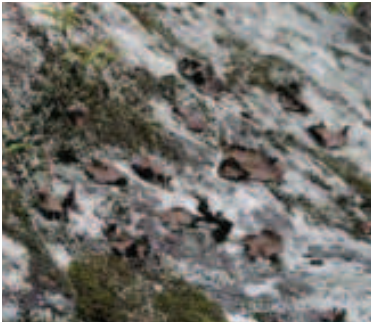
■**文献**：7, 9.

執筆：大村嘉人・宮脇博巳・永松 大

**イワタケ** イワタケ目イワタケ科  
*Umbilicaria esculenta* (Miyoshi) Minks

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



三角山山頂付近 2021.9.20 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内生育地の三角山では、生育場所周囲の樹木成長が進み、日射量不足になって個体が衰退する可能性がある。また、大気汚染や乾燥化による影響もあると思われる。

■**特徴**：葉状地衣類で、背面は灰褐色で平滑、濡れると緑色が強くなる。腹面は暗黒色で、黒～黒褐色の偽根を付ける。中央の臍状体で基物に着く。ジロフォル酸を主成分とする。山地の石英質の岩石上に生育。

■**分布** 県内：鳥取市東町水道谷では2010年に確認。鳥取市用瀬町三角山では2010年に続いて2021年にも確認した。県外：北海道、本州、四国、九州の山地（海拔100–2250 m）。

■**保護上の留意点**：生育場所周囲の樹木管理が必要。また、大気汚染や乾燥化などの影響を受けやすいことから、森林保全などを総合的に行っていくことが望まれる。

■**文献**：9, 11

執筆者：大村嘉人・宮脇博巳・永松 大

V  
章

選定種の解説

## ■参考文献 地衣類

1. 朝比奈泰彦(1952)日本之地衣. 第二冊ウメノキゴケ属. 資源科学研究所(東京) 162 pp. 23 pls.
2. Din, L. B., Zakaria, Z. & Elix, J. A. (2004) Additional lichen records from Indonesia and Malaysia 5. Lichens from Bukit Larut, Peninsula Malaysia. *Australasian Lichenology*, 55: 10–12.
3. 愛媛県レッドデータブック改訂委員会(2014) 愛媛県レッドデータブック 2014 RED DATA BOOK EHIME — 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物 —. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課.
4. 柏谷博之・小林圭介・文 光喜(2011) 滋賀県の地衣類チェックリスト. 滋賀自然環境研究会誌, 9: 1–22.
5. 京都府自然環境保全課(2015) 京都府レッドデータブック 2015. 第2巻：野生植物・菌類編. 京都府自然環境保全課.
6. 宮脇博巳・原田 浩(1997) 佐賀県富士町のジャヤナギ林の地衣類. *ライケン*, 10: 34–36.
7. Ohmura, Y. (2001) Taxonomic study of the genus *Usnea* (lichenized Ascomycetes) in Japan and Taiwan. *Journal of Hattori Botanical Laboratory*, 90: 1–96.
8. 佐々木弘治郎(1988) 第16回地衣類観察会報告. *ライケン*, 6: 6–7.
9. 鳥取県立博物館(2000) 生駒義篤寄贈標本目録. 鳥取県立博物館所蔵目録, 46: 1–174.
10. 山本好和・川上寛子・原光二郎・小峰正史・黒木秀一・岩切勝彦(2018) 宮崎県綾町の地衣類補遺. 宮崎県総合博物館研究報告, 38: 87–92.
11. 吉村 庸(1974) 原色日本地衣植物図鑑. 保育社(大阪).

10

地衣類